

Title	オープン・イノベーション・ネットワークの存在の一考察 : コラボレーションを通じたプラズマディスプレイの開発と事業化 : 「光学フィルタ」を事例として
Sub Title	
Author	廣田, 高敏(Hirota, Takatoshi) 高木, 晴夫(Takagi, Haruo)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2012
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2012年度経営学 第2792号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002012-2792

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文 2012年度

論文標題

オープン・イノベーション・ネットワークの存在の一考察
— コラボレーションを通じたプラズマディスプレイの開発と事業化
「光学フィルタ」を事例として—

指導教員（主査）	高木 晴夫 教授
副指導教員（副査）	浅川 和宏 教授
副指導教員（副査）	小幡 績 准教授

2012年1月7日提出

学籍番号	81130890	氏名	廣田 高敏
------	----------	----	-------

論文要旨

(内容の要旨)

私は富士通とサムスンという日本及び韓国の大企業に 21 年間在籍した。富士通にもサムスンにもどの企業にも負けない沢山の優れた経営資源がある。世界中からエリート人材も多数集められている。にもかかわらず、良い業績の組織もあれば、悪い業績の組織もある。またイノベーションを次々に生み出す組織もあれば、それができない組織もある。

その理由については、戦略やマネジメント・システム、企業文化やリーダーシップなどによってこれまでさまざまに語られてきたが、突き詰めていくと、トップからボトム、取引先も含めた外部の組織や個人のネットワークのあり方にたどり着くのではないかと。

また、富士通やサムスンが属する情報通信分野では、変化のスピードが速く、それとともに、新たな価値を創造するために必要な技術や部品、補完製品（「エコシステム」）の範囲が急速に広がって行くという特徴を持っているゆえに、いっそう外部の技術・製品・企業の活用が必要になるのではないかと。

そこで、私が富士通およびサムスンでした 2 つのグローバル・デファクト・スタンダード（後の国際規格の土台となる製品）化のひとつである、プラズマディスプレイのキーデバイス（重要補完製品）である「光学フィルタ」の開発と事業化を事例として取り上げ、私の記憶と、当時の開発・製品化に実際にかかわったコラボレーション・パートナーである外部企業の事業責任者（当時）などへのヒアリング（ほぼエスノグラフィー的な聞き書き）をベースに、最先端デバイスの創造から事業化までの革新過程を時系列的に追いながら追体験することによって、何らかの示唆を得られるのではないだろうか。

本稿では、まず、オープンイノベーションとはどのような考え方であり、なぜそのような考え方が提唱されたのかを整理する。次に、複雑ネットワーク、その中でも分野を開拓したとされる有名な二つの知見としてスモールワールドとスケールフリーを紹介した上で、イノベーションとネットワークの関係について考える。

そして、当該事例において、「富士通が光学フィルタを外部とのコラボレーションを活用してどのように開発し、事業化したのか」とするリサーチ・クエッションに対する研究の結果を提示する。それに対して当該事例から得られた解答は、①コラボレーションによる外部の知識の利用の促進、②価値の創造と獲得のメカニズム「ビジネスモデル」の構築、③知的財産のオープン化、そして④私はゲートキーパーである！、の 4 点に整理できよう。

以上